

## READYFOR 株式会社 第 5 期 事業報告

(自：2018 年 7 月 1 日～至：2019 年 6 月 30 日)

### 株式会社の現況に関する事項

#### 1-1. 事業の経過及びその成果

クラウドファンディングの市場（「購入型」「寄付型」「投資型（ファンド型）」「貸付型（ソーシャルレンディング）」の4分類合計）における市場規模は、昨年度同様に順調に拡大しております。

市場拡大の背景には、地方自治体でのクラウドファンディング活用の広がりに加え、サイト運営事業者と金融機関との事業連携も進んでいることが挙げられます。新たな資金調達の手段として定着しつつあり、今後において国内クラウドファンディング市場はさらに拡大する見込みとなっております。

上記市場拡大の見込みに伴い、グロービス・キャピタル・パートナーズ、Mistletoe 株式会社、Salesforce Ventures を新規引受先とした第三者割当増資、及びみずほ銀行他金融機関からの融資（当座貸越極度額を含む）を合わせた、総額約 10 億円超の資金調達を実施いたしました。

また、一層の事業成長を実現するため、経営体制の拡充・強化を行いました。

が執行役員 CLO に、が執行役員 CTO に、グロービス・キャピタル・パートナーズ 氏が社外取締役就任しました。

さらに、アドバイザーとして、株式会社ストライブインターナショナル 氏、株式会社メルカリ 氏、Mistletoe 株式会社 氏、東京大学 氏、Salesforce Ventures 日本代表 氏、株式会社ディー・エヌ・エー執行役員 氏、株式会社電通 エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター/クリエイティブ・テクノロジストの 氏が参画いたしました。

急成長中であるクラウドファンディング事業の人材採用、システム強化ならびに、「社会を持続可能にする新たな資金流通メカニズムの確立」を加速させるための新規事業開発を行います。

## 1-2. 対処すべき課題

当社は、「誰もがやりたいことを実現できる世の中をつくる」というビジョンを掲げ、2011年3月に日本初のクラウドファンディングサービス「Readyfor」を開始いたしました。今では、個人の社会貢献意識の高まりに加え、全世界的な取組みとなっているSDGs（持続可能な開発のための2030アジェンダ）が採択され、企業も社会の持続可能性に対する責任が問われる時代になっています。

一方で、SDGsの達成には未だ年間5兆～7兆ドルの投資ギャップが存在すると言われており、現状十分な資金が流入しているとは言えません。当社は、テクノロジーとビジネスアイデアを用いて、短期的な利潤の追求だけからは生まれない、「社会を持続可能にする新たな資金流通メカニズムの確立」を目指します。

当社はこれまでも既存の金融サービスではお金が流れにくい分野にクラウドファンディングという手法を通じてお金を流してまいりましたが、今後は上記目標を実現するため以下のような取組みを進めて参ります。

### 1. ファン・リレーション・マネジメント事業（SaaS事業）への展開

これまでのクラウドファンディングではプロジェクトベースの資金調達に用途が限定されており、支援者との関係が一過性のもので終わってしまっているケースが多くみられました。今後は実行者が支援者との長期的な関係性を構築し、継続的な支援を獲得できるようにサポートするとともに、支援者にとってより良い支援体験を提供することを目的として、実行者向け「ファン・リレーション・マネジメント」ツールの開発と事業展開の検討を行っていきます。

### 2. ローカルパートナーシッププログラムの強化

当社はこれまで地域金融機関65機関との提携をはじめ、自治体、新聞社など、地域を支える様々なパートナーと、地域での創業や地域の活動に流れるお金の量を増加させてきました。今回の資金調達でさらに、パートナーをはじめとする地元有力企業との協力関係を強め、全国でクラウドファンディングが利用される社会を目指します。

### 3. SDGs関連事業の開始

これまでアサヒグループ、J-COMなどの企業と提携し、社会性の高いプロジェクトを実施する団体に対して企業のCSR資金をマッチングさせる「マッチングギフトプログラム」を提供してまいりました。今後は、SDGs達成に向けて取り組む企業側のニーズの高まりを踏まえて、当社内に「ソーシャルインパクト事業部」を立ち上げ、企業とSDGs達成に寄与する活動を行う団体やビジネスとのマッチングをはじめとして、Readyforのデータ活用を通じた事業展開を行なっていきます。

# 事業報告書

(第6期)

自 2019年7月1日  
至 2020年6月30日

東京都千代田区麹町一丁目12番1号住友不動産ふくおか半蔵門ビル2階

READYFOR 株式会社

# 事業報告

(自2019年7月1日 至2020年6月30日)

## 1. 株式会社の現況に関する事項

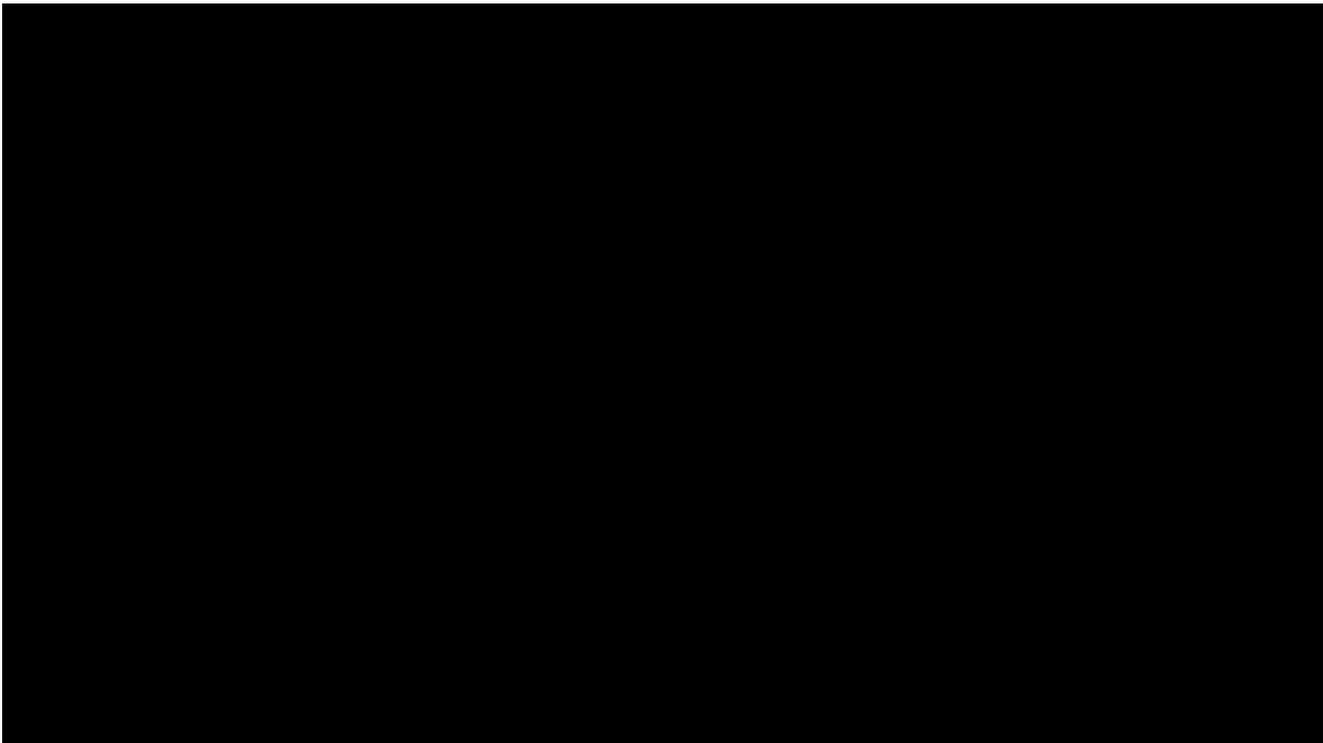
### (1) 事業の経過及びその成果

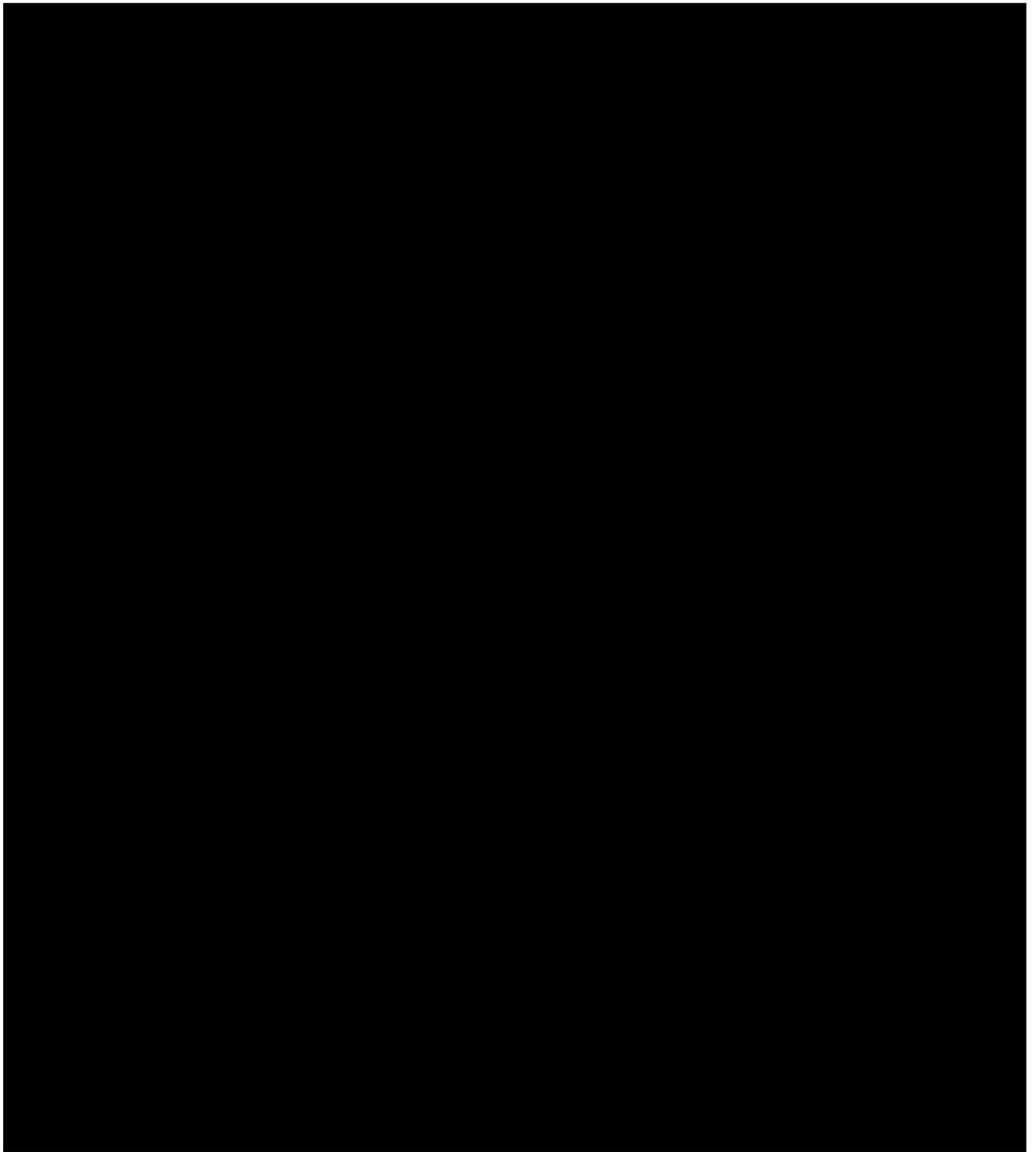
当社の属するクラウドファンディング市場は、新型コロナウイルス感染症の拡大が社会経済に大きな影響を及ぼす中において、社会貢献活動資金や事業資金を集めるクラウドファンディングなどの需要が急速に拡大したこともあり、順調に拡大しております。

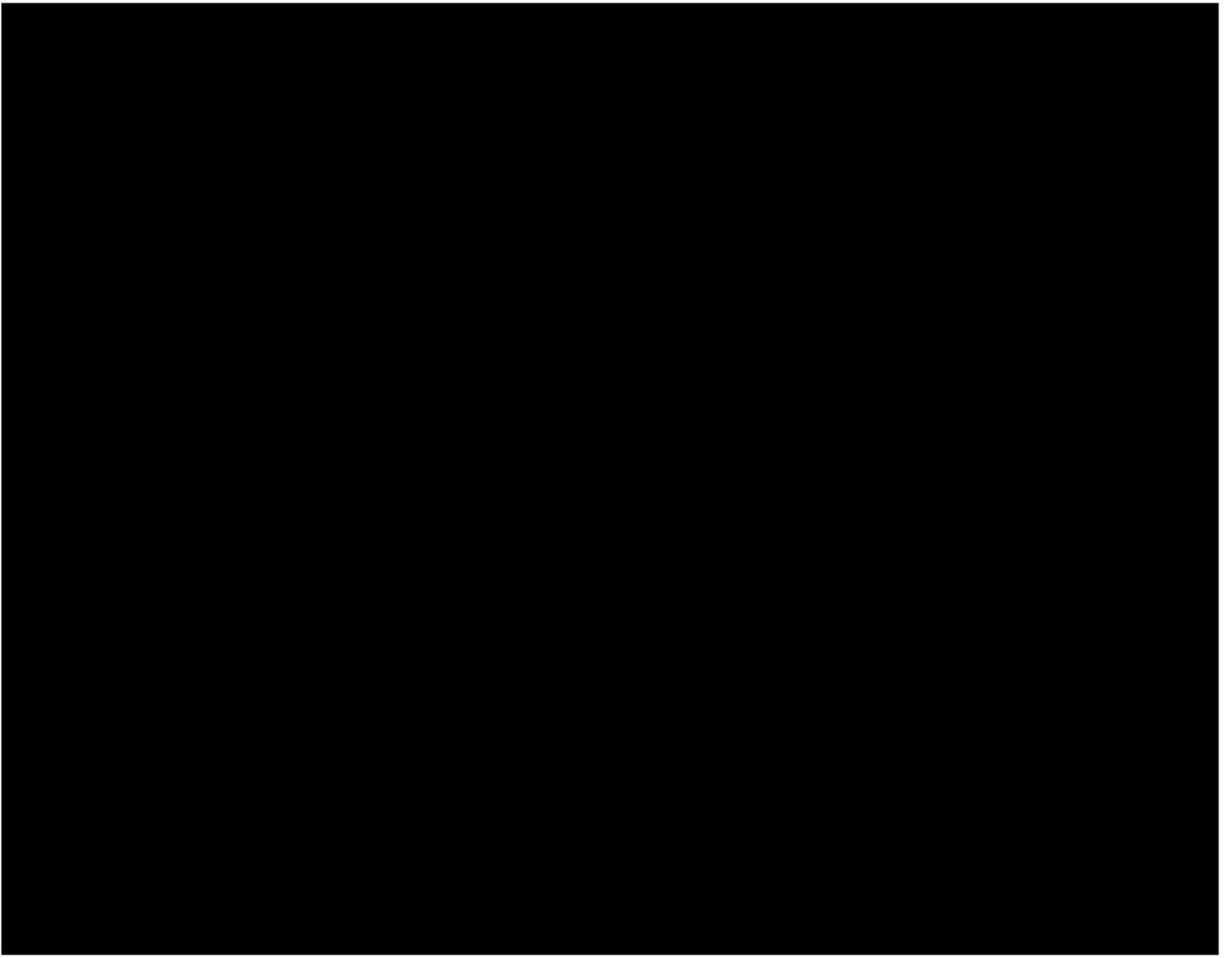
このような状況の中、当社は昨事業年度から継続して積極的に人材採用を行うとともにコーポレート・アイデンティティ (CI) の刷新、オフィス移転等を行い、事業及び組織の拡充に努めました。

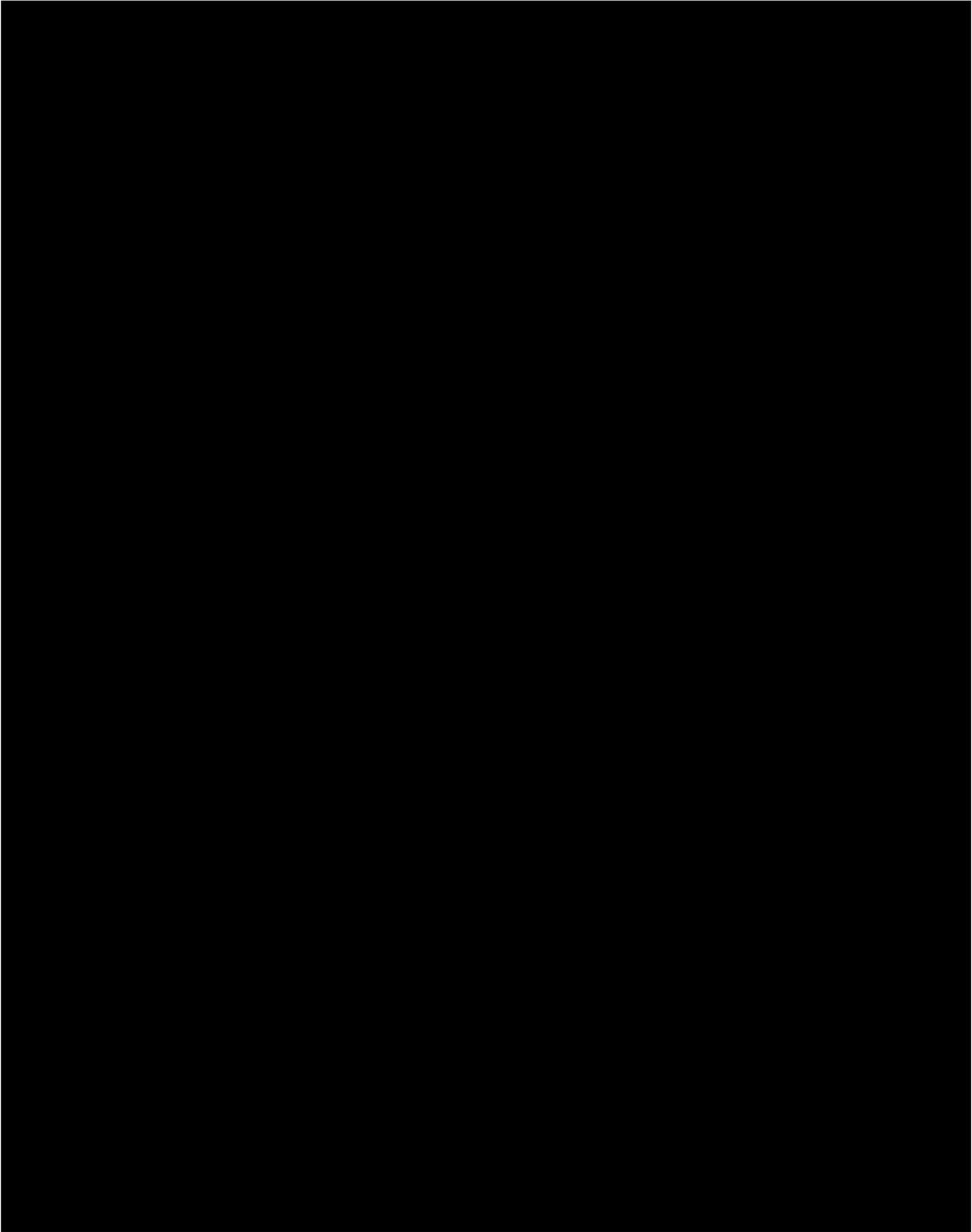
クラウドファンディング「READYFOR」の運営事業においては、キュレーターの採用及び育成やプロダクト、オペレーション改善等が奏功し、フルサポートプラン（経験と実績のあるキュレーターがプロジェクトにあわせて専任で担当するプラン）において大型案件を継続的に受注できたほか、シンプルプラン（担当者による安心サポートを業界最安水準の手数料で利用できるプラン）の件数、支援総額も順調に拡大いたしました。また、「新型コロナウイルスによる中止イベント支援プログラム」や「地域飲食応援 クラウドファンディング『みらい飯』」などの支援プログラムを提供するなど、サービス拡大のための積極的な施策を講じました。

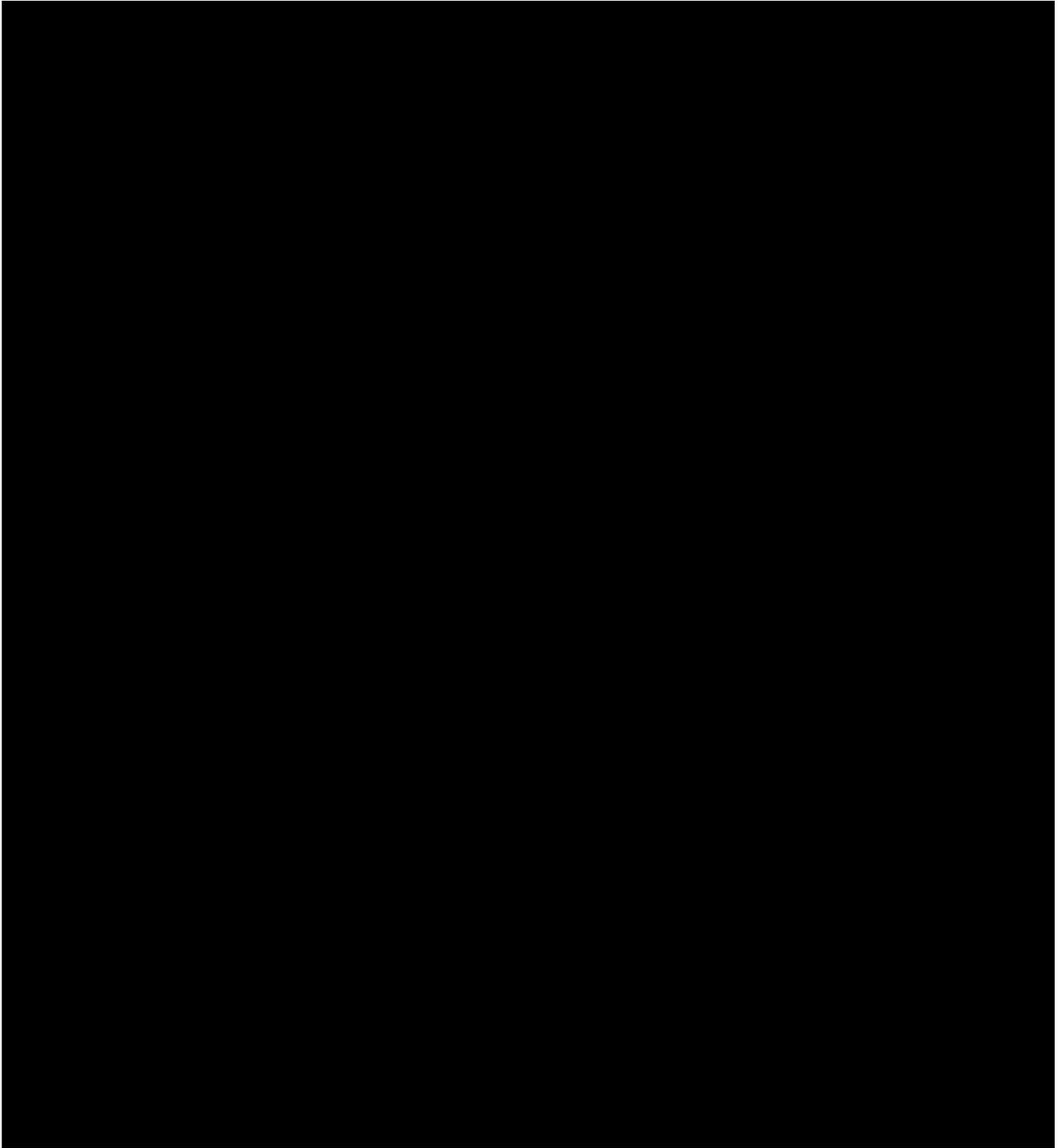
また、当社は、クラウドファンディングサービス「READYFOR」の提供を通じて得たネットワーク・ノウハウを活かし、マッチングギフトのしくみを用いた「READYFOR SDGs」、ピアボーンズ「Unipos」の「SDGsプラン」の共同開発・提供、「新型コロナウイルス感染症：拡大防止活動基金」の管理及び運営の受託を行うなど、CSR活動やCSV創出に取り組む大企業や助成財団との連携を強化し、支援金の需要者のみならず、支援金の拠出者の課題を解決する事業開発にも積極的に取り組みました。

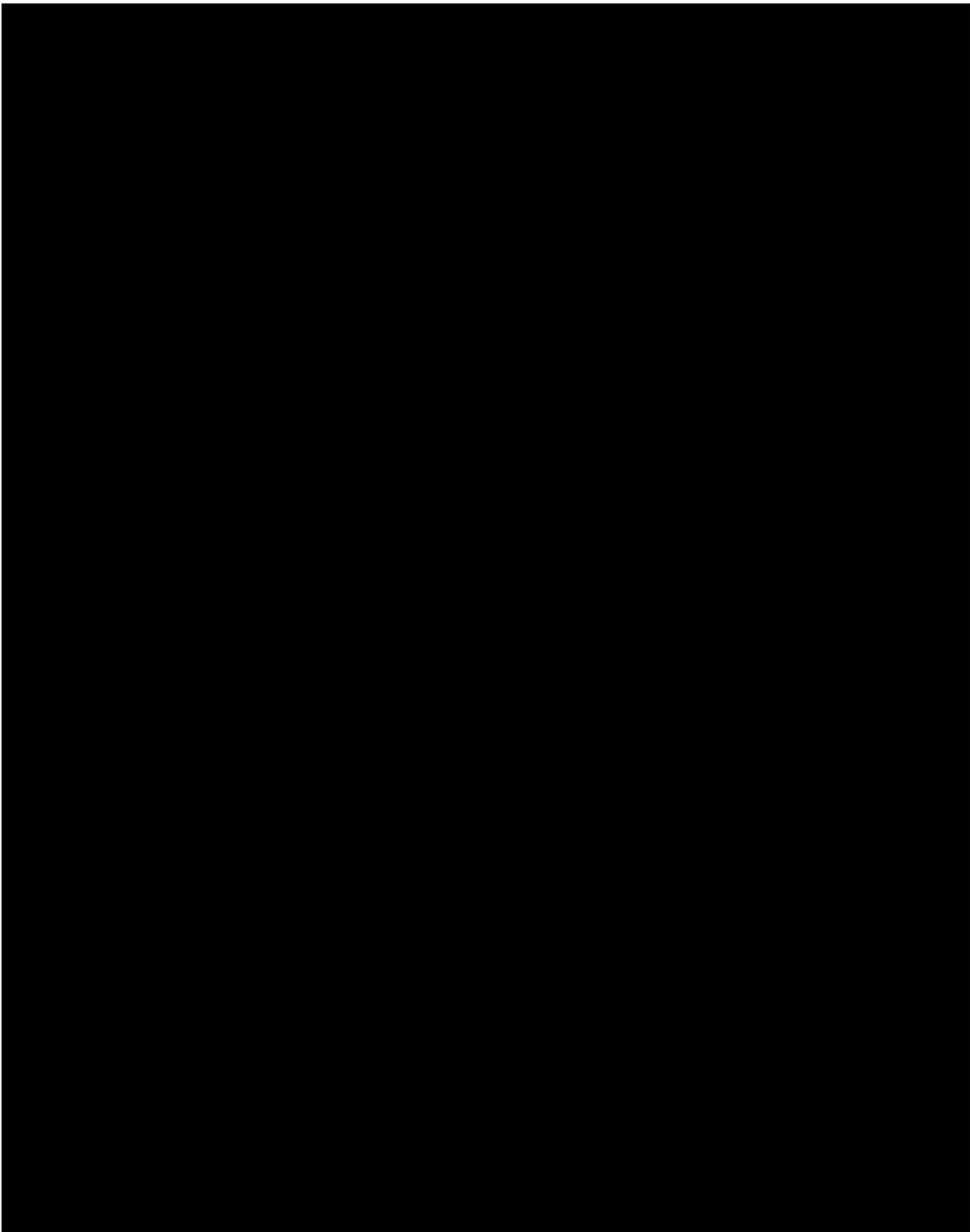














# 事業報告書

(第7期)

自 2020年7月1日  
至 2021年6月30日

東京都千代田区一番町8住友不動産一番町ビル7階  
READYFOR 株式会社

# 事業報告

(自 2020 年 7 月 1 日 至 2021 年 6 月 30 日)

第 7 期定時株主総会で前事業年度（2020 年 6 月度（第 6 期））の計算書類の修正決議を行う予定であり、事業報告に記載している前事業年度の金額及び前事業年度比較は修正後の金額によっております。

## 1. 株式会社の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及びその成果

当社は、「誰もがやりたいことを実現できる世の中をつくる」をビジョンに掲げ、既存の金融サービス・資本主義の枠の中ではお金が流れにくい分野、主に NPO や医療機関、研究機関などに資金調達の手段を展開しています。

具体的には、国内最大級のクラウドファンディングサービス「READYFOR」を通じて、2 万件以上のプロジェクトに対して 200 億円以上の支援金を届けてきました。また、直近では 2021 年 4 月より「レディーフォー遺贈寄付サポートサービス」を立ち上げ、遺言による寄付実施のサポートを開始しました。このように様々な事業を通じ、ミッションである「想いの乗ったお金の流れを増やす」ことを実現します。

近年、SDGs や ESG 投資など社会貢献活動に対する認知度向上に加え、新型コロナウイルス感染症や自然災害に対する寄付文化の醸成など外部環境の変化を背景に、当社のターゲット領域である「寄付性の高いお金」を取り巻く市場は拡大傾向にあります。

このような状況下において、

